

日本レクリエーション協会課程認定校 関東甲信越ブロック研修会 ～ HYOUTAN LIGHT SPECIAL WORKSHOP ～

高野 千春

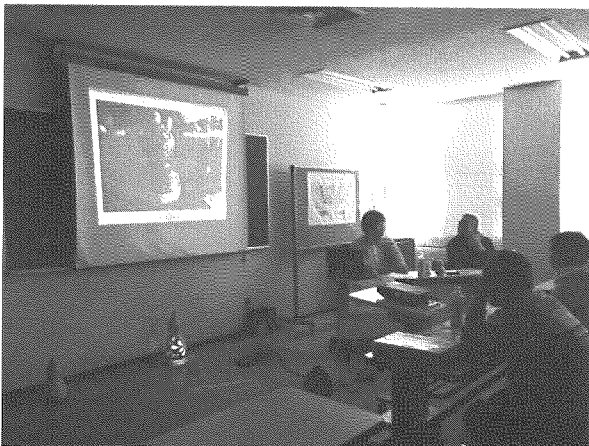
日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校（全国352校）の平成25年度関東甲信越ブロック研修会は、埼玉県立加須げんきプラザにて平成26年2月22日に開催された。本学は関東甲信越ブロック幹事校として大泉保育福祉専門学校と協力し、この研修会の企画・運営に当たった。

レクリエーションとは、人を元気づけること。元気は、生きる力。スポーツや仲間との交流など、さまざまな活動を通じて人を元気づける。生きていることに喜びを感じてもらおう。それが、日本レクリエーション協会が考えるレクリエーションである。そこで今年度は「レクリエーションでひと・地域・世界をつなぐ」と題し、HYOUTAN LIGHT SPECIAL WORKSHOPを企画した。『ひょうたん（瓢箪）』は最古の栽培植物のひとつと言われ、水筒、酒器、調味料入れなどの容器に加工されることが多い。（お蕎麦屋さんなどで、ひょうたんの容器に七味唐辛子が入っているのをよく見かける！）今回の研修会は、このひょうたんを新たなレクリエーション財として取り上げ、『ひょうたんライト教室』や『ひょうたん絵付け教室』を各地（海外を含む）で開催されている須田芳巳先生をお迎えした。前半は、須田先生の具体的な活動を例に“ひと・地域・世界をつなぐレクリエーション”についてお話をうかがい、後半は、実際に乾燥した『ひょうたん』に穴を開けたりビーズをはめ込んだシェードをLED

ライトにかぶせて“世界にひとつだけのひょうたんライトづくり”を楽しむという2部構成とし、参加者にとってはお土産付きの嬉しい研修会となった。

普通に栽培されたひょうたんでは硬すぎて、レクリエーション財としては利用しにくい。そこで須田先生は試行錯誤を繰り返し、誰もが簡単に穴を開けられる程良い硬さのひょうたんの栽培を開発されたが、レク財として利用するためには収穫したひょうたんを乾燥させなければならず、今年度の乾燥した『ひょうたん』はこの研修会分で終了だったらしい。（超ラッキー!!）「ひょうたんライトづくり」だけでなく「ひょうたん栽培」も含めたレクリエーションとして、①町おこしや地域づくりの支援、②保育・幼児教育施設や児童館での子ども・子育て支援、③高齢者支援、④障がい者の就労支援・就労移行支援、⑤海外（ネパール・タイ・NYなど）での社会貢献など、須田先生の活動の幅はますます広がっている。さまざまな分野でのコラボレーションが可能であり、新たなインスピレーションを感じられる内容であった。

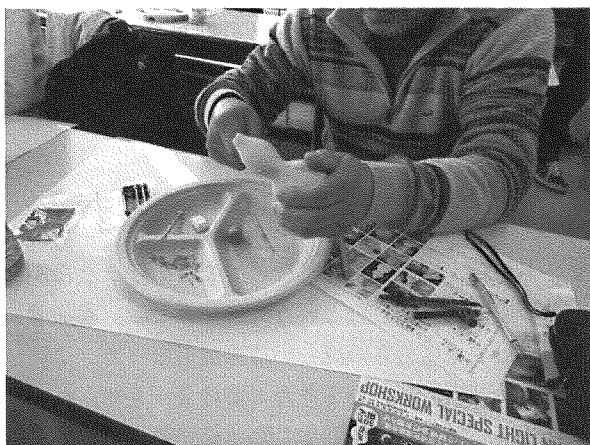
今回は、認定校関係者以外に周辺の公認指導者資格保有者や保育・幼児教育関連施設、障害者支援施設からも参加があり、さまざまな現場でレクリエーション活動が求められていることをあらためて感じた。課程認定校としても、今後このようなワークショップの機会を増やしていきたいと思う。



“レクリエーションでひと・地域・世界をつなぐ”



乾燥した『ひょうたん』



ひょうたんライトづくり



“世界にひとつだけのひょうたんライト”

